

4. 遊び

(1) 遊びの目的

小学部の全体的な発達の実態を諸検査で見ると、2才3カ月～4才8カ月くらいの発達を示している。この時期の子供は感覚運動、更に運動遊び（身体全体の均衡をとりながら身体運動をする遊び）が、最も発達する年齢であると同時に、見たて活動やつもり活動などの象徴機能の高まりも見られる。この子供達の成長発達の段階を考えながら、遊びを展開していく必要がある。

小学部の子供達の遊びの実態として、遊びの経験が少ないことから遊びの量、質、時間が不十分であるといえる。遊びとしては一人遊び、若しくは平行遊びが多い。外遊びではせっかく備え付けられた遊具でも、ほとんど使用していないものがある。そのような子供達に、遊びの時間や場を設けてやりたい。そして、子供達の遊びの種類が豊富になり、遊べなかった子供が遊べるようになった、使わなかった遊具が使えるようになったなど、今の遊びをより発展させながら、最終的には子供が発達していくからだの素地を養いたい。

(2) 実施内容

内容	方法	体制	
自由遊び	子供を何の制限もなく自由に遊ばせる	学級	学級単位で遊びに取り組む時間においては、各学級の実態、子供の実態に応じ遊びの内容を担当が構成する
設定遊び	一人ひとりの発達段階において、その子供に相当であると思われる遊びを、教師側が意図的な指導で子供を遊ばせる		
遊具遊び	子供が自由に遊ぶことを原則とするが、教師の指導、配慮を付け加えて子供を遊ばせる	学部	

- ・ 学部で1週間に2回、火曜日と金曜日の合同音楽の後、10時30分頃から25分間を遊具遊びの時間として固定する。指導には、小学部教官全員があたる。
- ・ 合同遊び以外の4日間は、学級で1日25分間の遊びの時間を確保する。
- ・ 合同遊具遊びでは、場所を校庭（晴天時）とプレールーム（雨天時）を限定する

(3) 実施状況

自由遊び、設定遊び、遊具遊びを並行し9月から継続して行っている。自由遊び、設定遊び、遊具遊びの実施状況を次にあげていく。

①自由遊び

日常よくやっている自由遊び（複数回答）

種類	初歩遊び	虫とり	すべり台	ゆりかごブランコ	つり橋	ブランコ	三輪車	自動車	自転車
人数	4人	1人	1人	2人	1人	4人	2人	1人	1人

- ・ 子供一人が一種類、多くて二種類の遊びしかしていない。一人遊びが多く、遊びの種類が乏しいといえる。

② 設定遊び

設定遊びの種類 (複数回答)

種類 人数	すべ り台	ゆりかご ブランコ	つり 橋	うん てい	とび 石	築山	三輪 車	自動 車
	1人	3人	3人	2人	1人	4人	2人	1人

・ 遊びの種類

例) 築山 (4人)

- ・ 石段の斜面を手を使わず、バランスをとってひとりで登り下りする (1人)
- ・ タイヤの面を四つ這いで登り下りする (1)
- ・ 石段、タイヤの斜面を補助して登り下りする
- ・ 石段の斜面を四つ這いで登り下りする

ゆりかごブランコ (3人)

- ・ ゆりかごブランコのこぎ方
- ・ ゆりかごブランコを大きくゆらしてこぐ

遊びの種類・内容は一人ひとりの子供の実態に応じて、指導を行っている。設定遊びは、現在の子供の遊びを発展、伸長していく基盤となるように継続して行っていく。

③ 遊具遊び

日	場所	内容
9月30日	校庭	築山を中心に芝の斜面をそり滑りして遊ぶ
10月11日	校庭	うんてい、つり橋、丸太を中心に遊ぶ
10月13日	カ-ルーム	すべり台、マット、平均台、トランポリンを使って遊ぶ
11月2日	校庭	築山、うんてい、つり橋、追いかけっこなどをして遊ぶ
11月15日	校庭	つり橋から出発して鉄棒、丸太渡り、シーソーなどで遊ぶ
11月18日	校庭	築山を中心にそり滑りや石段、タイヤの斜面を使って遊ぶ

- ・ 教員が子供と一緒に遊ぶことから、自由遊びの時は一人でしか遊ばない子供でも、この遊具遊びの時間には複数で遊ぶことができるなど、教員を仲介とし何人かの子供が集団で遊ぶ場面が見られるようになった。
- ・ 当初の遊びの実態では、遊具の中でほとんど人気のなかったシーソーにも教員が一声かけると、多くの子供がシーソーに乗って遊ぶことができた。
- ・ 自由遊びの時間には一つの遊びしかやらない子供でも、様々な遊具を使って平行遊びができるようになってきている。また、動きも活発になってきている。